

環境経営レポート 2024

(対象期間：2024年4月～2025年3月)

発行日：2025年6月30日

 株式会社 ジオレ・ジャパン



®環境省

エコアクション21

認証番号0013444

 資源に変えるチカラ、自然に還すチカラ。
大栄環境グループ

目次

1	組織概要	1	7	環境経営目標とその実績	18
2	許認可取得状況	3	8	環境経営活動計画の取組み 結果とその評価	22
3	事業紹介	5	9	ジオレ・ジャパンの取組み	32
4	EA21組織図	15	10	大栄環境グループの取組み	36
5	環境経営方針	16	11	代表者による全体評価と 見直し結果	39
6	環境関連法規の遵守状況	17			

会社概要

事業所名	株式会社 ジオレ・ジャパン	EA事務局	中西 智愛
所在地	兵庫県尼崎市東浜町1-1	対象事業所	・ 本社工場 ・ 末広工場
連絡先	TEL 06-6411-3690 FAX 06-6411-3225	事業内容	・ 汚染土壌の浄化及び浄化土の販売 ・ 土壌汚染に関する総合コンサルティング ・ 汚染土壌に係る工事 ・ 低濃度PCB廃油の無害化处理 ・ 産業廃棄物の収集運搬業 (収集運搬の実績は現状なし)
創立年月日	平成15年10月1日		
代表者	代表取締役 柴垣 雄一		
資本金	1億円		
従業員数	58名 (男性：45名 女性：13名)		
環境管理責任者	島原 直樹		2025年3月31日現在

汚染土壌搬入量の推移

項目	単位	2022年	2023年	2024年
汚染土壌 処理量	t	346,634	253,912	276,651
浄化土 販売量	t	157,708	170,234	198,477
売上高	百万円	3,716	3,231	4,384
従業員数 ※ 各年3月31日時点	人	52	53	58

取得許認可

本社工場

- ・汚染土壌処理業許可
（浄化等処理施設〈浄化〉〈不溶化〉、分別等処理施設）
許可番号：第13110010001号
- ・指定調査機関 環2004-5-3019（土壌汚染対策法）
- ・建設業 国土交通大臣 許可（特-3）第23536号
- ・低濃度PCB無害化処理大臣認定 2013年 第5号
- ・産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業（詳細は次頁）

汚染土壌施設の種類		処理能力	
1	浄化等処理施設（浄化（抽出-洗浄処理））	23t/h	552t/d(24h)
2	浄化等処理施設（浄化（抽出-化学脱着））	160t/h	1,280t/d(8h)
3	浄化等処理施設（浄化（分解-熱分解））	4.6t/h	110t/d(24h)
4	浄化等処理施設（浄化（抽出-磁力選別））	105t/h	2,520t/d(24h)
5	分別等処理施設（不溶化）	105t/h	2,520t/d(24h)
6	分別等処理施設（異物除去）	105t/h	2,520t/d(24h)
7	分別等処理施設（含水率調整）	105t/h	2,520t/d(24h)

末広工場

- ・汚染土壌処理業許可（分別等処理施設）
許可番号：第13100010006号

汚染土壌施設の種類		処理能力	
1	分別等処理施設（異物除去）	240t/h	1,920t/d(8h)
2	分別等処理施設（含水率調整）	240t/h	1,920t/d(8h)

2.許認可取得状況

取得許認可

・産業廃棄物収集運搬業

※活動期間中（2024年4月～2025年3月末）
収集運搬の実績はありませんでした。

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類															
					燃え殻	汚泥	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属くず	動植物性残さ	銕さい	ばいじん
尼崎市	第7112-212355号	令和2年6月29日	令和7年6月28日	有	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
兵庫県	第02805212355号	令和1年12月9日	令和11年12月8日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
大阪府	第02700212355号	令和1年12月17日	令和11年12月16日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
三重県	第02400212355号	令和2年2月25日	令和12年2月24日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
和歌山県	第03000212355号	令和2年2月19日	令和12年2月18日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○

・特別管理産業廃棄物収集運搬業

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類				
					燃え殻	汚泥	廃油	銲さい	ばいじん
尼崎市	第7162-212355号	令和2年6月29日	令和7年6月28日	有	○	○	○	○	○

●運搬車両
ダンプトラック：2台
キャブオーバー：1台

●積替保管施設
面積：19.52㎡
保管上限量：23.42㎡

産廃
面積：36.69㎡
保管上限量：110.07㎡

特管

汚染土壌問題のトータルソリューション

土壌汚染に関する調査・コンサルティング事業（調査・分析・評価・対策のご提案）、浄化事業、浄化土販売事業により、お客様のニーズに対応した最適なソリューションを提供しています。

1 コンサルティング

調査計画

現地調査

分析

評価

対策実施計画

- ・「GIS（地理情報システム）を用いた地歴調査システム」を活用した迅速な地歴調査
- ・環境保全や土木技術に関する知識経験を有する技術者による最適ソリューションの提供



2 土壌処理

原位置対策

原位置封じ込め/原位置浄化

原位置浄化工法

◎バイオレメディエーション ◎科学的処理（酸化・還元分解等）
◎ガス吸引、揚水曝気 ◎空気注入 ◎原位置土壌攪拌（フェントン法 等）

敷地外対策

独自開発の浄化方法 / 大規模なストックヤード

分 別

埋立処理 / セメント原料化



3 再利用

浄化土を埋戻し材や地盤改良材等として販売し、土壌の再利用を推進

3.事業紹介

汚染土壌処理 施設レイアウト



- ① 事務所棟
- ② 計量設備
- ③ 前処理棟
- ④ 熱処理設備
- ⑤ 洗浄処理棟
- ⑥ 浄化土置場
- ⑦ 第二処理棟
- ⑧ 専用バス

3.事業紹介

汚染土壌処理 処理フロー

汚染土壌



砂質系



粘質系

浄化



・熱分解処理



・洗浄処理



・乾式磁力選別



・化学脱着

分別



・不溶化処理



・異物除去
・含水率調整

再資源化



浄化済み土壌（全量販売）

適正処理



埋立処理



セメント原料化

3.事業紹介

汚染土壌処理 熱処理設備

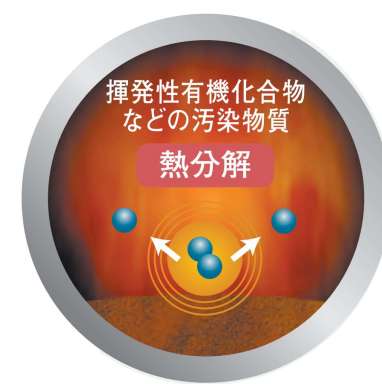
高温熱処理することで、ほとんどの汚染土壌を浄化できます。

汚染物質はロータリーキルンにて約1,000℃の高温で熱処理されます。この工程で分離された重金属類は排ガス処理設備にて確実に回収し、廃棄物として処分します。

また、揮発性有機化合物等は熱分解されます。



ロータリーキルン内部の汚染土壌の様子



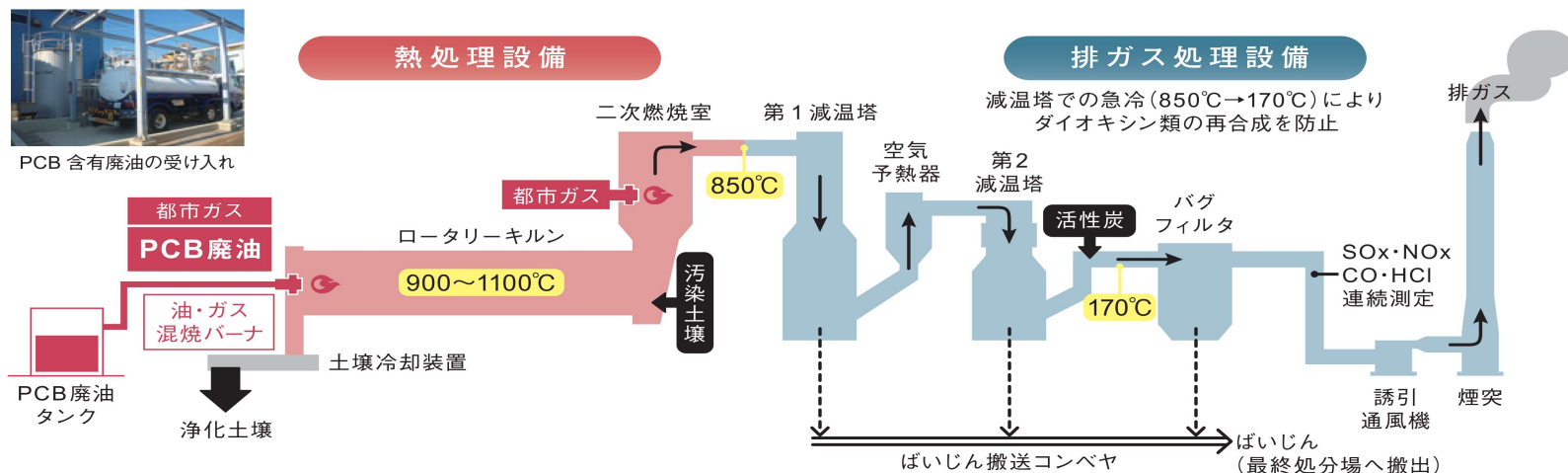
3.事業紹介

汚染土壌及びPCB廃油処理 PCB無害化

高温熱処理設備により、
PCB汚染土壌を浄化
します。

PCB 無害化のしくみ

二次燃焼室において、燃焼温度 850℃以上、排ガス滞留時間 2 秒以上を確保し、PCB を確実に分解します。

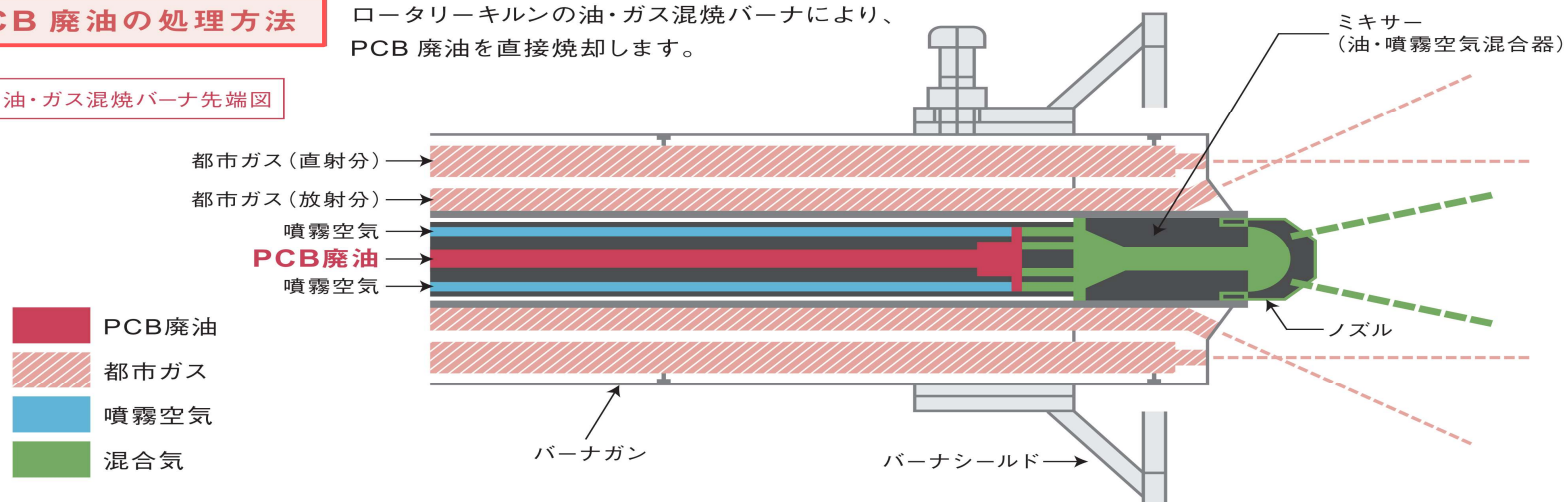


PCB 廃油の処理方法

ロータリーキルンの油・ガス混焼バーナにより、
PCB 廃油を直接焼却します。

油・ガス混焼バーナ先端図

さらに低濃度PCB廃油
の無害化も同時に実施
します。



3.事業紹介

汚染土壌処理 洗浄処理

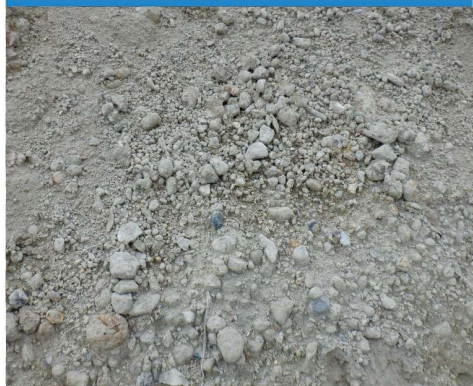
摩擦や水流によりレキや砂の表面から汚染物質をはぎ取ります。

磨鉱機や土壌分級機を用いた多段階の水洗浄により、汚染物質を細粒土とともにレキや砂粒から確実に取り去ります。

洗浄に用いた水は水処理を行い洗浄施設にて循環利用します。



洗浄前



SEMによる
(電子顕微鏡)
洗浄効果
確認

汚染物質が存在する
細粒分を確実に除去



洗浄後



3.事業紹介

汚染土壌処理

DME処理（乾式磁力選別処理）

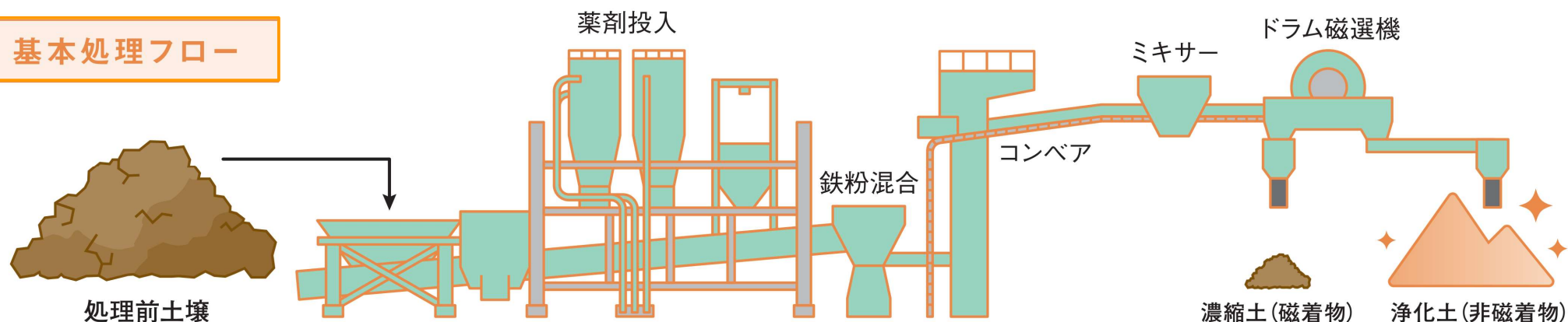
自然的原因の汚染土壌等を水を用いずに磁力選別にて浄化します。

鉄粉に砒素や鉛などの重金属類を吸着させる性質があることを利用し、重金属含有土壌に鉄粉を混合して重金属類を吸着させた後、磁力を用いて鉄粉および重金属イオン等を分離除去します。

DME工法の最大の特徴は、処理プロセスにおいて水をほとんど使用しないため、排水処理が不要となることです。



基本処理フロー



3.事業紹介

汚染土壌処理 その他の処理

・埋立処理

関西圏を中心に4カ所の汚染土壌処理業許可を有する大栄環境グループの最終処分場にて埋立処理が可能です。

低濃度（第二溶出量基準以下）の汚染土壌処理に有効です。廃棄物の埋立処理で培ったノウハウを生かし、安心と安全を提案します。

・不溶化处理

薬剤などにより、第二種特定有害物質の汚染土壌からの溶出量を低減する処理方法です。処理後の土壌は再処理汚染土壌処理施設へ搬出しなければなりません。

・化学脱着

汚染土壌に薬剤（生石灰等）を混合し、水との水和熱で土壌温度を上昇させ、第一種特定有害物質を土壌から揮発させて除去する方法です。



3.事業紹介

汚染土壌処理 その他の処理

・ 分別等処理

再処理汚染土壌処理施設への受け入れが可能となるよう異物除去等の処理を行います。

◎異物除去

岩、コンクリートガラ等の異物を除去します。

◎含水率調整

中性固化材や生石灰等を混合し、汚染土壌の含水率を調整します。

・ セメント原料化

セメントの主原料は石灰石ですが、それ以外の成分として粘土や石炭灰等も相当量使用されています。セメント原料としての基準（塩分・アルカリ量等）を満たした低濃度の汚染土壌も積極的に活用されています。

・ 輸送時の環境負荷軽減

土壌の運搬に際してはトレーラーや船舶を積極的に活用しています。



2023年8月31日 末広工場に専用バース完成

浄化土の活用

・浄化土の品質管理

浄化土は汚染土壌を浄化プラントにて適正処理し、土壌汚染対策法および関連ガイドラインに基づいた頻度や項目で試料を採取し、第三者の計量証明機関において公定法により、汚染のないことを確認しています。



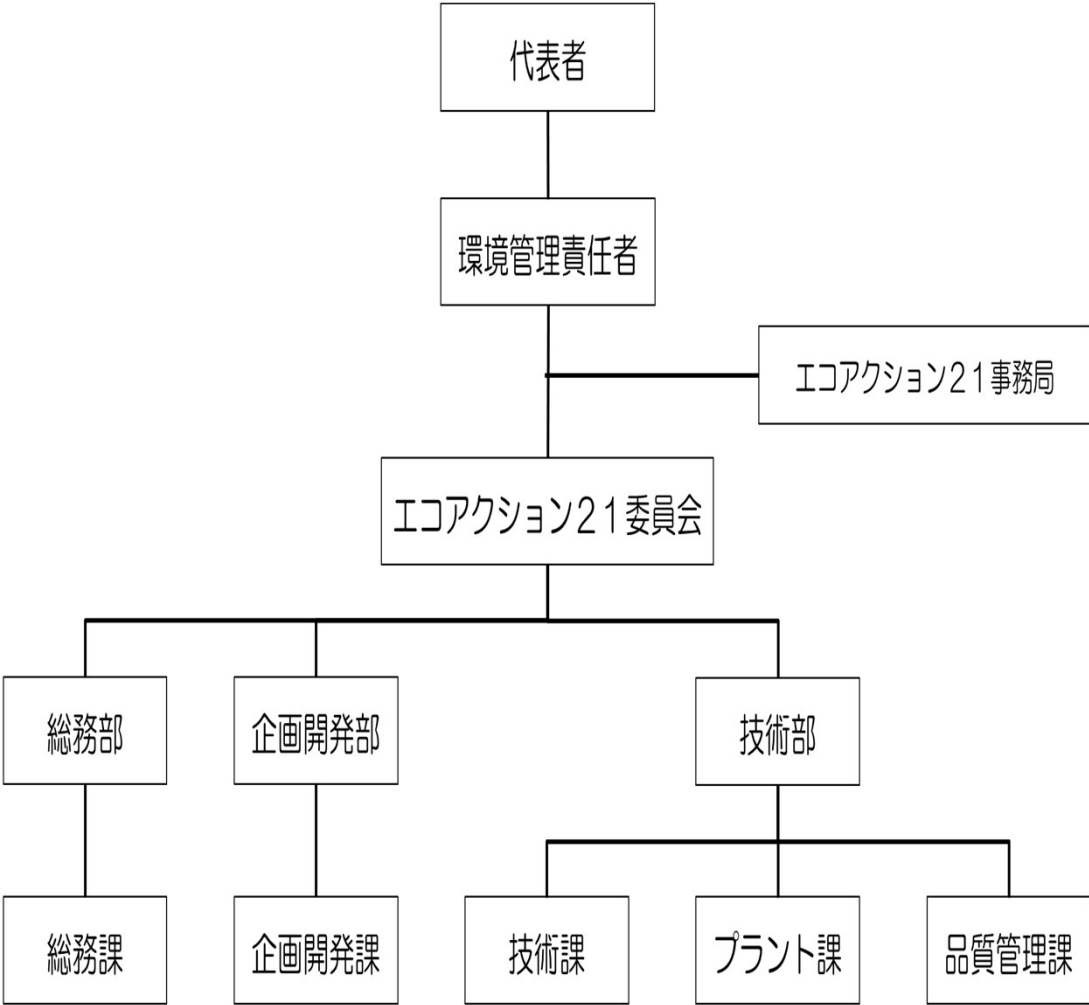
浄化土のリサイクル品

浄化土は建設工事の埋め戻し材料をはじめ、地中配管の周囲の埋め戻し材、芝の目砂、敷き碎石、アスファルト骨材、地盤改良材、路盤材など多くの用途にご利用いただいております。



配管まわりの埋戻し

EA21組織図



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育・訓練を実施、記録の作成 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

※ 営業は、総務課に含まれます。

ジオレ・ジャパン 環境経営方針

1. 環境関連法規、地域の条例・協定を遵守し、地域社会と共に事業を展開します。
2. 汚染土壌や廃棄物の適正処理・再資源化により、循環型社会の構築に努めます。
3. 電気、化石燃料の有効活用や社有車・重機類の経済的運転によりCO₂の削減を推進します。
4. 水資源の節約、汚水の適正処理及び漏洩防止により、環境の保全に努めます。
5. 汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理に努めます。
6. 美化活動や場内緑化を推進し、緑豊かで清潔な事業所づくりに取り組みます。
7. 環境経営方針は、全従業員に周知のうえ社内外に公開し、環境経営を継続的に改善してゆきます。

2020年 11月 1日
代表取締役 柴垣雄一

6.環境関連法規の遵守状況

法令遵守状況

各業務に係る法令の遵守事項を各部署にてピックアップし、毎月の月次チェック表を基に実施漏れがないよう心掛けています。

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

法律の名称	対象となる事項
土壌汚染対策法	・ 処理後土壌・地下水・排水・排ガス分析 ・ 汚染土壌処理業に係る各種変更・届出・報告等
大気汚染防止法	・ 排ガス分析、一般粉じん発生施設設置・廃止届等
水質汚濁防止法	・ 雨水排水分析
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・ ばいじん・排ガス分析(熱処理施設に限る) ・ 低濃度PCB大臣認定に基づく各種測定・変更・届出等
ダイオキシン類対策特別措置法	・ 処理後物・ばいじん・排ガス分析(熱処理施設に限る) ・ 法令に係る届出等
PRTR法	・ 第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出
PCB特措法	・ 低濃度PCB廃棄物に係る保管・処分状況の報告
省エネルギー法	・ 省エネルギー法に係る各種報告・変更・届出等

[illegible]

各部署の担当者が、毎月実施すべき
遵守事項を確認し、いつ・誰が実施
したかを記録。

問題があれば、改善し、法令遵守を徹底できる体制を構築しています。

7.環境経営目標とその実績

主な環境負荷の実績

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	6,637,455	6,243,401	6,832,222
廃棄物排出量	トン	1,159	1,079	1,076
一般廃棄物排出量	トン	3	3	3
産業廃棄物排出量	トン	1,156	1,077	1,073
水使用量	m ³	37,081	35,066	35,267

※二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh 関西電力2019年度の調整後係数

※二酸化炭素総排出量は、活動目標に挙げていない低濃度PCB含有廃油等を含む。

□環境経営目標及びその実績

年 度		基準値	2024年		評 価	2025年	2026年
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 ※本社工場・末広工場合算	kg-CO ₂	1,024,711	1,127,182	934,150		924,809	915,467
	基準年度比	2023年	110%	83%	○	99%	98%
都市ガスによる二酸化炭素削減 ※22年より都市ガス切替の為、目標設定なし	kg-CO ₂	3,392,055	3,731,261	3,373,836		3,340,097	3,306,359
	基準年度比	2023年	110%	90%	○	99%	98%
自動車燃料による二酸化炭素削減 (乗用車ガソリン)	kg-CO ₂	7,032	7,735	7,546		7,471	7,395
	基準年度比	2023年	110%	98%	○	99%	98%
重機燃料による二酸化炭素削減 (軽油)	kg-CO ₂	826,064	908,671	965,480		955,825	946,170
	基準年度比	2023年	110%	106%	○	99%	98%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	5,249,863	5,774,849	5,281,012		5,228,202	5,175,392
一般廃棄物の削減	kg	2,716	2,987	2,771		2,744	2,716
	基準年度比	2023年	110%	93%	○	99%	98%
産業廃棄物の削減	kg	1,076,658	1,184,324	1,073,065		1,062,334	1,051,604
	基準年度比	2023年	110%	91%	○	99%	98%
低濃度PCB廃油の処理	kg	339	-	531		-	-
	基準年度比	2023年	-	-		-	-
水使用量の削減 ※上水・工水合算	m ³	35,066	38,573	35,267		34,914	34,562
	基準年度比	2023年	110%	91%	○	99%	98%

※処理量前年比110%の見込みの為、目標値は基準年の+10%以内に抑えるよう設定。

評価内容

2024年度は、汚染土壌処理量が前年度比109%と上昇したが、廃棄物発生量、水使用量については概ね前年度並みとなっており、電気・ガスの二酸化炭素排出量については前年よりも削減ができています。

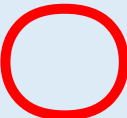
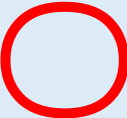
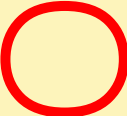
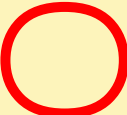
土壌取扱量増加による、本社工場と末広工場との土壌の横持運搬が増加したことで、軽油の使用量が前年よりも大きく上がったが、これに関しては例年の課題となっており、来期より末広工場の新規施設が竣工となることから改善していく流れにあると考えられる。また、事業拡大に伴う、新たな環境負荷の取り組み対策を練っていく必要がある。

環境経営目標とその実績一覧（1）

目標項目		取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
						2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量の削減	使用電力量の削減	プラント設備における電気・化石燃料の有効活用によりを削減する。	プラント設備にお けCO ₂ 排出量削減 の取組みを行う。	- 都市ガス使用量の把握。 - PCB廃油処理に伴う熱源利用。 - CO₂排出量の削減。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
		事務所内の節電により、CO ₂ を削減する。	事務所内の節電を推進する。	節電推進方策の展開 - 節電パトロールの実施。 - 節電啓発活動 - 冷蔵庫内整理整頓。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	社有車・重機の燃料使用量の削減	重機稼働時の低燃費運転を実施し、燃料消費量及びCO ₂ の排出量を削減する。	平均無操作アイドリング割合を23.5%以下に抑制する。 (夏期間の8月～10月は28.0%以下)	平均無操作アイドリング割合 平均24.7% 8月～10月平均26.3%	△	基準年より1.5%削減する	基準年より2%削減する	基準年より2.5%削減する
		社有車の経済的運転によりCO ₂ を削減する。	エコカー（アード、リーフ）の使用率の向上。 目標値 エコカー使用率34%又は、エコカー月次走行距離550km	エコカー利用率53% 月次走行距離1,015km	○	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比1% エコカー年間走行距+300km	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比 2% エコカー年間走行距+300km	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比 3% エコカー年間走行距+300km

7.環境経営目標とその実績

環境経営目標とその実績一覧 (2)

目標項目		取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
						2025年度	2026年度	2027年度
総排水量の削減	工業用水使用量の削減	水資源の節約、汚水の適正処理及び漏洩防止により、環境の保全に努める。	排水受水送水量(汚水)の管理と水処理、脱水設備を活用し汚水の再利用を行い、水資源を節約する。	工業用水用量 ℓ		工業用水使用量 基準年比－1％	工業用水使用量 基準年比－1.5％	工業用水使用量 基準年比－2％
	上水使用量の削減	節水の喚起により上水使用量の削減する。	従事者1人あたりの上水使用量 前年度比　－1.0％ 本社：0.1186m3/人・日 末広：0.1922m3/人・日 以下を達成する。	従事者1人あたりの上水使用量 本社0.0895m3/人・日 末広：0.0722m3/人・日		従事者1人あたりの上水使用量 基準年比－1％	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比－1.5％	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比－2％
廃棄物排出量の抑制	事業系一般廃棄物（排出量）を削減	ゴミの分別等の推進	1カ月当たりのゴミの排出量 169kg以下を達成する。	1ヶ月当たりのゴミの排出量 平均173.2kg		1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比1％削減	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比2％削減	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比3％削減
汚染土壌の浄化	浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査の頻度が適正であることを確認する。	汚染土壌の適正な浄化処理を推進することにより、土壌環境改善及び循環型社会の構築に努める。	浄化確認頻度 180t/回以下	全ロット 180t/回以下		180t/回以下	180t/回以下	180t/回以下
	浄化確認調査の結果が基準値を超過した件数を把握し、当該土壌が適正に再処理されたことを確認する。	汚染土壌の適正な浄化処理を推進することにより、土壌環境改善及び循環型社会の構築に努める。	基準超過回数　0	基準超過回数　0 再処理に該当する土壌の発生はなし。		基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。

環境経営目標とその実績一覧（3）

目標項目	取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
					2025年度	2026年度	2027年度
環境活動の実施	花壇整備	季節毎の花の育成	本社屋前花壇及び自転車置き場前花壇 ・春の花植付・開花 ・夏の花植付・開花 ・来季春の花種まき 夏の花：ひまわりとマリーゴールド 春の花：ノースポールとなでしこを開花。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	美化活動の実施	場内の美化活動や場内緑化を推進し、緑豊かで清潔な事務所づくりに取り組む。	・1回/月以上の美化清掃実施。 ・課員全員の緑の活動実施。	○	左記を継続 数値目標の設定はなし。ただし、継続的に環境活動を実施する。各個人の環境意識の向上が目的。	左記を継続	左記を継続
	古切手の収集	古切手をボランティア団体へ寄付し、世界中で困っている人達を支援する。	・古切手回収ボックスの設置及び回収枚数の把握 ・古切手回収に関する取り組み内容、結果の周知 ・回収した古切手の寄付	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	内部コミュニケーションの強化	内部コミュニケーションを通じて環境の保全に努める。個人の環境に対する意識の向上。	・E A 2 1に関するコミュニケーションを行う ・E A 2 1に関する取り組み内容、結果の共有	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 プラント 電気・LNG使用量調査

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
都市ガス使用量	93,570m ³	32,096m ³	33,847m ³	153,972m ³	39,054m ³	103,357m ³	166m ³	149,596m ³	218,463m ³	219,994m ³	140,815m ³	211,435m ³	1,396,365m ³
PCB廃油処理量	75.47kL	18.73kL	47.68kL	98.26kL	11.72kL	0kL	32.85kL	113.78kL	32.02kL	73.50kL	5.04kL	80.43kL	589.46kL
PCB廃油 GJ換算	2,966.00GJ	736.11GJ	1,873.77GJ	3,862.07GJ	460.43GJ	0.00GJ	1,291.10GJ	4,472.05GJ	1,258.32GJ	2,888.77GJ	198.01GJ	3,161.22GJ	23,167.86GJ
都市ガス削減量	66,205m ³	16,431m ³	41,825m ³	86,207m ³	10,278m ³	0m ³	28,819m ³	99,823m ³	28,088m ³	64,481m ³	4,420m ³	70,563m ³	517,140m ³
エネルギー起源 CO ₂ 削減量	147.64 t	36.64 t	93.27 t	192.24 t	22.92 t	0 t	64.27 t	222.60 t	62.64 t	143.79 t	9.86 t	157.36 t	1,153.22 t

CO₂削減量 前年715.44t
前年比161%

担当者のコメント

PCB廃油処理で生じる熱を利用し、都市ガス（化石燃料）の使用量を削減することで、エネルギー起源CO₂排出を削減する。
上記の差により、化石燃料の削減及びエネルギー起源のCO₂削減量を求めた結果1153.22 tのCO₂が削減された。
引き続きPCB廃油処理で生じる熱を利用し、化石燃料の削減及びエネルギー起源のCO₂削減を行う。

実施内容

評価

①都市ガスの使用量を把握。

○

②PCB廃油処理で生じる熱を利用し、都市ガス（化石燃料）の使用量を削減しエネルギー起源CO₂排出を削減する。

○

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 事務所内の節電を推進

実施内容	評価
①節電パトロール(エアコンの切り忘れがないかなど)を実施する。	○
②節電の推進啓発活動を行う。	○
③冷蔵庫の中が整理整頓されて清潔に保たれているか、長期間放置されているものがないかのチェックして、問題があれば、対処するとともに、再発防止策を講じる。	○

担当者のコメント

月に1度の節電パトロールにより、電気の消し忘れなど無駄な電力消費を削減する取り組みやステッカー掲示で節電を啓発する取り組みを行った。
また消し忘れがあった部屋には注意喚起をし、改善の対応を行った。

定期的に冷蔵庫内の放置物を確認して、冷蔵庫内を清潔に保つとともに、結果を周知して従業員の意識向上を図った。

節電パトロールについては、今後は電力のひっ迫の案内がある日に実施し、無駄な電力消費の削減に努める。
冷蔵庫内の点検、節電ステッカーの掲示を行い、消し忘れ防止などの節電啓発を引き続き行う。

節電パトロール

4	項目	詳細	要否	備考
表	大会運営	○	○	
表	女子更衣室	○	○	
表	女子更衣室	○	○	
1	女子更衣室	○	○	
2	その他	-	-	
表	観衆	○	-	
表	記録室	○	-	
表	台座席	○	-	
2	台座席	○	-	
表	その他	-	-	
表	バス（大会・乗用）	○	-	
表	更衣室併設自衛室	○	○	
表	トイレ・シャワー室	○	-	
表	休憩室	○	-	
表	その他	○	-	
表	多目的緑地	○	○	
表	東日本大震災被災者	○	○	
表	その他	○	-	

節電啓発活動

【エコアクション活動】

2024.5.30

「節電を啓発する活動」をさせていただいています。これまではステッカー貼付など

今回は、 の設置方法を教えていただきましたので、ご紹介させていただきます。
 ※（設置についての質問にたくさん答えていただきました。途中、設置から工場の話になりますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。）
 妙様の設置に対する意図が高まってくれたいと思います。

- ・冷蔵庫をいっぱいにする
- 冷蔵庫はたくさん詰めていた方が温度が上がりにくいので、節電になるそうです。
- ・自転車での通勤

■ **をもっと好きになる、プチ情報** ■

冷蔵庫内の整理



8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 重機類の燃料使用量削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
総稼働時間	1,714h	1,461h	1,627h	2,059h	1,662h	2,227h	2,238h	1,697h	1,546h	1,154h	447h	779h	18,611h
総無操作時間	345h	310h	334h	487h	420h	583h	612h	523h	431h	330h	125h	165h	4,665h
平均無操作 アイドリング	20.1%	21.2%	20.5%	23.7%	25.3%	26.2%	27.3%	30.8%	27.9%	28.6%	28.0%	21.2%	25.1%



担当者のコメント

メーカーから入手する資料を基に重機の稼働状況を確認し、無操作時間の多い重機をピックアップし、当該重機のオペレーターにヒアリングを行い、オペレーターの意識向上及び無操作時間の削減に努めた。

毎日の打ち合わせの中で、取組結果の開示を行い、理解を深めた。また、取り組み結果を掲示するなどし、オペレーターの意識向上を図った。

2024年度は、全体的に重機が老朽化により故障が多く、またアイドリングストップをすると再始動に時間を要し作業効率が悪化する事もあり、無操作時間の削減取り組みが実施困難となり著しい結果にはならなかった。

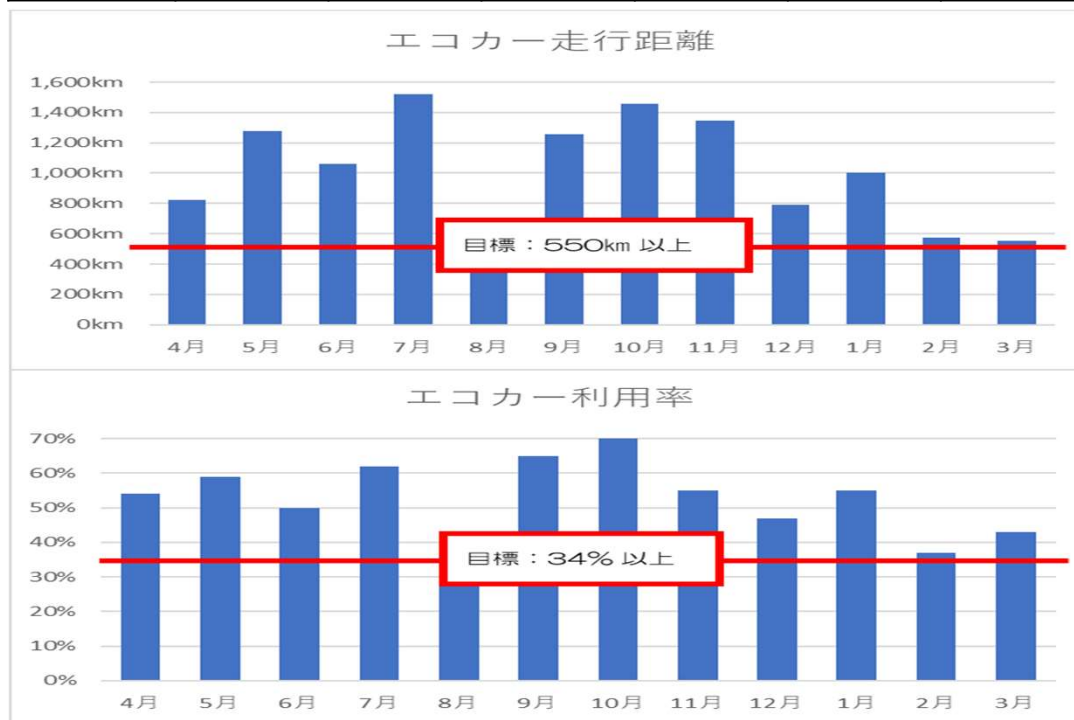
2025年度については、新たな取り組みの実施も含めて活動を継続する。

実施内容	評価
①メーカーから入手する資料を基に、重機の稼働状況を確認し、無駄なアイドリングを削減する。	○
②無操作時間の多い重機をピックアップし、当該重機のオペレーターにヒアリングを行い、オペレーターの意識向上及び無操作時間の削減に努める。	○
③メーカーよりデータの提供を受けた後に、重機オペレータと個別又は班分けし少人数にてEA21説明会を開催し、理解を深める。	○
④取り組み結果を掲示し、オペレーターの意識向上を図る。	○

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 社有車の経済的運転

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
エコカー走行距離	824km	1280km	1059km	1523km	505km	1254km	1459km	1346km	793km	1005km	574km	554km	1015km
エコカー利用率	54%	59%	50%	62%	39%	65%	70%	55%	47%	55%	37%	43%	53%



实施内容

評価

- ①エコ車（ハイブリッド、リーフ）利用率の見える化する。
- ②エコ運転啓発活動を行う。

O

担当者のコメント

社有車利用の際は、エコカー（アコード、リーフ）利用の声掛けをし、エコカー利用の意識づくりに努め、使用率の向上に繋げることができた。また使用状況の報告の社内メールでエコに関するクイズを掲載するなどして、社内コミュニケーションの活性化に繋げた。

社有車の1台が新車に入れ替る予定で、関心がそちらに集まる可能性があるが、社有車利用時のエコカー利用の声掛け、社内メールでのエコカー利用推進を引き続き行う。

工運啓発活動



8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

工業用水使用量の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
工業用水 使用量	3,705m ³	1,912m ³	1,781m ³	2,920m ³	1,746m ³	2,314m ³	2,576m ³	3,296m ³	3,584m ³	3,286m ³	2,219m ³	3,436m ³	32,775m ³
排水受水 送水量 (汚水量)	56,234m ³	33,260m ³	40,275m ³	21,966m ³	10,487m ³	35,255m ³	40,096m ³	50,793m ³	52,729m ³	39,512m ³	13,310m ³	60,372m ³	454,289m ³
脱水ケー キ量	4,261.85 t	2,456.14 t	1,587.32 t	1,051.15 t	193.16 t	1,463.17 t	2,353.69 t	3,340.39 t	3,583.78 t	2,656.15 t	539.81 t	2,449.01 t	25,935.62 t
再処理水 使用量	53,697m ³	31,798m ³	39,330m ³	21,340m ³	10,372m ³	34,384m ³	38,695m ³	48,805m ³	50,596m ³	37,931m ³	12,989m ³	58,914m ³	438,851m ³

工業用水使用量 前年32,377m³
前年比101.2%の微増

担当者のコメント

洗浄処理後水、雨水、タイヤ洗浄水等の汚水を水処理し、再利用すると同時に排水受水送水量(汚水)の管理を行った。水処理設備及び脱水設備を使用し、汚水内の不純物を取り除き、洗浄用水として再利用を行うことで、工業用水の使用量を抑えた。

また、設備・配管類の管理により、漏洩防止、環境保全に努めた

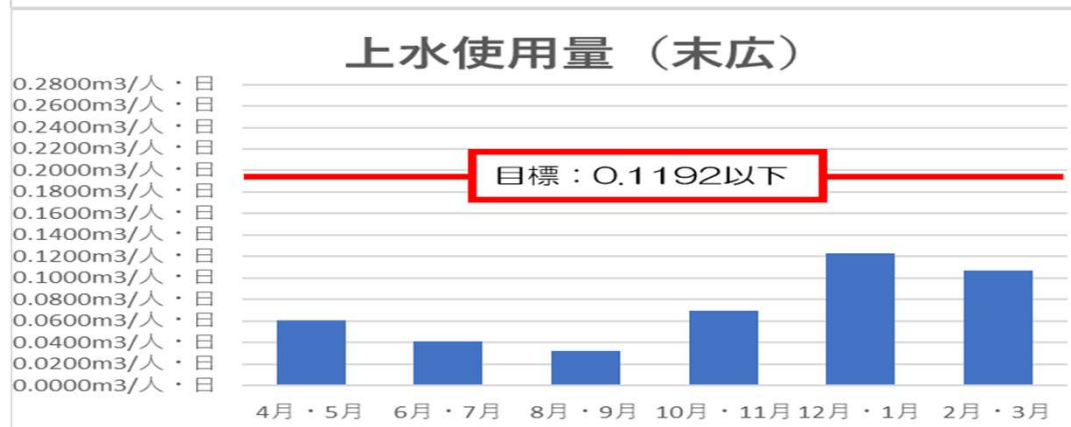
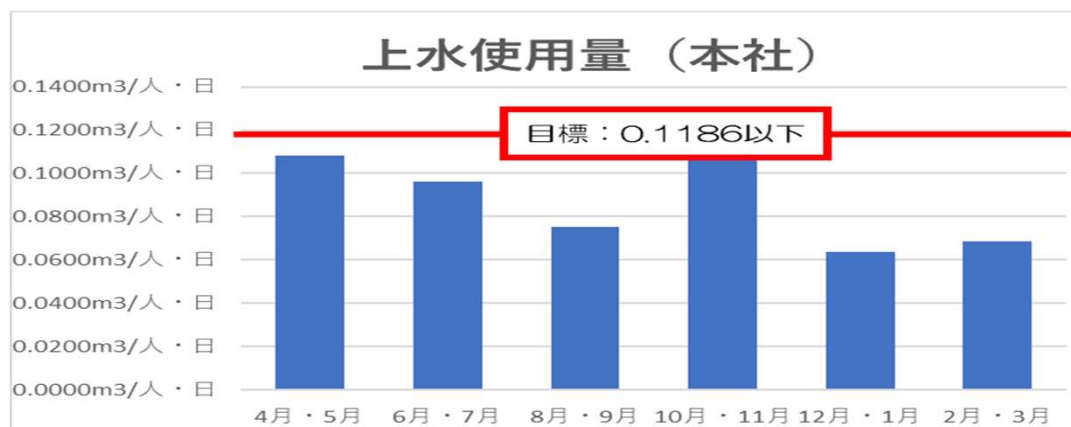
引き続き、泥水処理をし、再利用する事で、水資源の節約に貢献する。

実施内容	評価
①洗浄処理後水、雨水、タイヤ洗浄水等の汚水を水処理し、再利用。排水受水送水量(汚水)の管理。	○
②水処理設備及び脱水設備を使用し、汚水内の不純物を取り除き、洗浄用水として再利用。	○
③設備、配管類の管理により、漏洩防止、環境保全に努める。	○

8.環境経営活動計画の取り組み結果とその評価

上水使用量の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
上水使用量 (本社)	-	0.1083m ³ / 人・日	-	0.0964m ³ / 人・日	-	0.0755m ³ / 人・日	-	0.1244m ³ / 人・日	-	0.0637m ³ / 人・日	-	0.0686m ³ / 人・日	0.0895m ³ / 人・日
上水使用量 (末広)	0.0609m ³ / 人・日	-	0.0414m ³ / 人・日	-	0.0322m ³ / 人・日	-	0.0694m ³ / 人・日	-	0.1227m ³ / 人・日	-	0.1066m ³ / 人・日	-	0.0722m ³ / 人・日

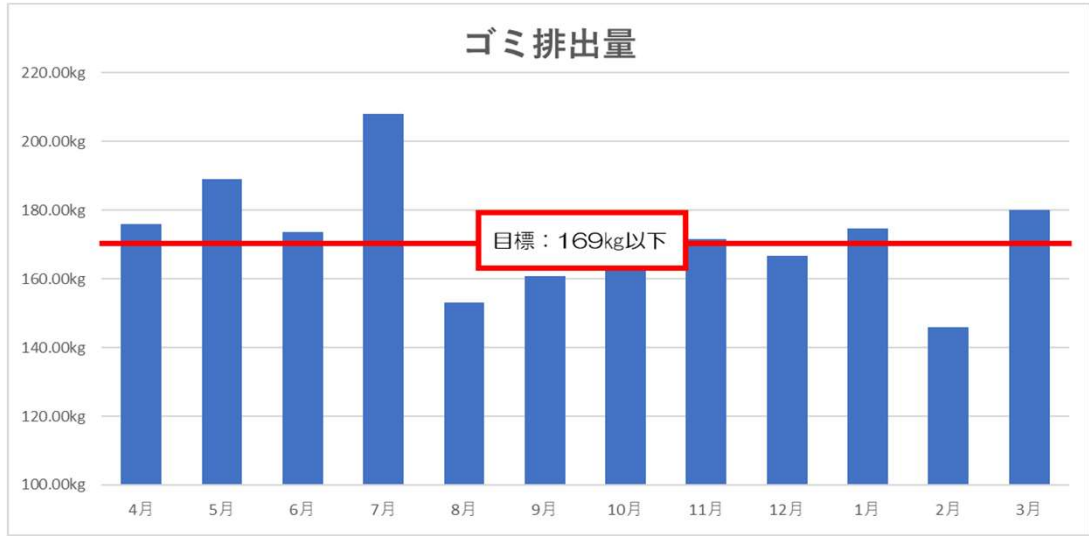


実施内容	評価
①上水使用量の確認・記録。	○

担当者のコメント
日々の上水使用量を把握・分析し、使用量の増減傾向の把握に努めた。その結果、本社工場では4月～7月において昨年度を上回る上水使用量が確認された。要因として従業員の増加や暖春の影響が使用量増加に結びついたと思われる。一方で本社工場では2023年11月に花壇の水やりを工業用水に切替たことで7月～9月ならびに11月～3月において上水使用量を前年よりも削減することができた。 本社工場では上水使用量の削減に対して、効果的な対策に繋がる取り組みが実施できたため、これの維持管理に努める。末広工場の上水使用量を削減する具体的な取り組みは、できていなかったため、末広工場新設工事に伴い雨水を利用するべく、雨水貯留槽の設置を2025年8月までに実施する。これらに加えて節水の喚起を目的として毎月、社内向けに節水啓発のアナウンスを行う。

事業系一般廃棄物(排出量)の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
ゴミ排出量	175.91kg	189.08kg	173.59kg	207.94kg	153.20kg	160.81kg	179.25kg	171.55kg	166.60kg	174.65kg	145.80kg	180.00kg	173.20kg
コピー用紙使用量 (A4)	25冊	40冊	40冊	40冊	20冊	40冊	25冊	40冊	40冊	40冊	40冊	30冊	35冊
コピー用紙使用量 (A3)	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	6冊	3冊	3冊	3冊



実施内容	評価
①コピー用紙の使用削減の推進。	○
②毎月のコピー用紙の使用量を記録する。	○
③ゴミ削減の啓発活動を行う。	○
④ゴミの排出量の記録する。	○

担当者のコメント

一般廃棄物排出記録から排出量増加の要因を探るため、ゴミ排出量の多い部署にヒアリングを行い、増加の原因把握に努めた。清掃担当者にもゴミ排出量が多い際は連絡依頼を行った。また外部からのゴミの持ち込み防止のためのステッカーを、ゴミ箱に貼り付けた。

排出記録の異常値の要因把握のため、清掃担当者からの廃棄物の増加についての連絡依頼、排出量増加の部署のヒアリングを引き続き行う。昨年度に多かった水濡れによるゴミ排出量の増加を防ぐ対策を行う。

2024年度実績
アルミ缶 18.00kg
シュレッダー紙 675kg
をリサイクル資源として回収することができた。

EA21 2月 ごみ排出量について

取り組み結果

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ゴミ排出量 (kg)	175.91	189.08	173.59	207.94	153.20	160.81	179.25	171.55	166.60	174.65	145.80	180.00

達成状況

項目	達成状況
ゴミ削減率	○
コピー用紙削減率	○
水濡れ防止	○

コメント

2月度 目標達成

2月は目標達成となりました。なんと目標値の-23.2kg！今年度一の素晴らしい記録です。いつもご協力ありがとうございます！

今日から出来る！ごみを減らす工夫★

- のびはきいさる分だけ購入する
- のびはきいさる分だけ購入する (紙コップ・割り箸等)
- のびはきいさる分だけ購入する

EA21 1月度 コピー用紙使用削減

取り組み結果

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コピー用紙使用量 (A4)	25冊	40冊	40冊	40冊	20冊	40冊	25冊	40冊	40冊	40冊	40冊	30冊
コピー用紙使用量 (A3)	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	6冊	3冊	3冊

コメント

1月度は目標達成となりました。なんと目標値の-23.2kg！今年度一の素晴らしい記録です。いつもご協力ありがとうございます！

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

浄化確認調査

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
処理後土壌発生量(t)	11,558 t	6,308 t	10,836 t	12,097 t	7,912 t	13,632 t	18,603 t	15,455 t	11,442 t	5,766 t	2,725 t	10,043 t	126,378 t
浄化確認調査回数	99回	59回	97回	125回	80回	124回	174回	144回	108回	55回	28回	90回	1,183回
土量/回数(t/回)	117 t/回	107 t/回	112 t/回	97 t/回	99 t/回	110 t/回	107 t/回	107 t/回	106 t/回	105 t/回	97 t/回	112 t/回	106 t/回
基準値超過回数	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
適正な再処理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

実施内容

評価

①浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査の頻度が適正であることを確認する。

○

②浄化確認調査の結果が基準値を超過した件数を把握し、当該土壌を適正に再処理されたことを確認する。

○

担当者のコメント

浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査し、全て100m³=180t以内に1回の頻度で適正処理することができた。

教育等を通じて認識を高め、引き続き適正な浄化確認調査の頻度を維持する。

また、極力基準超過とならないよう原土壌の汚染状態および処理状況を監視し、状況に応じ、薬品添加量の調整等を実施する。基準超過が発生した場合は、適正に再処理を実施し、最終的に再処理が完了できたことを確認していく。

環境活動の実施

実施内容	評価
① 花壇の整備活動 (種まき、耕作、施肥、植付、水やり、伐根)	○
②清掃活動を通じて、作業環境及び周辺地域の美化に努める。	○
③プラント設備周辺にプランターを設置。緑の活動を通じて、作業環境の改善を図る。	○

担当者のコメント

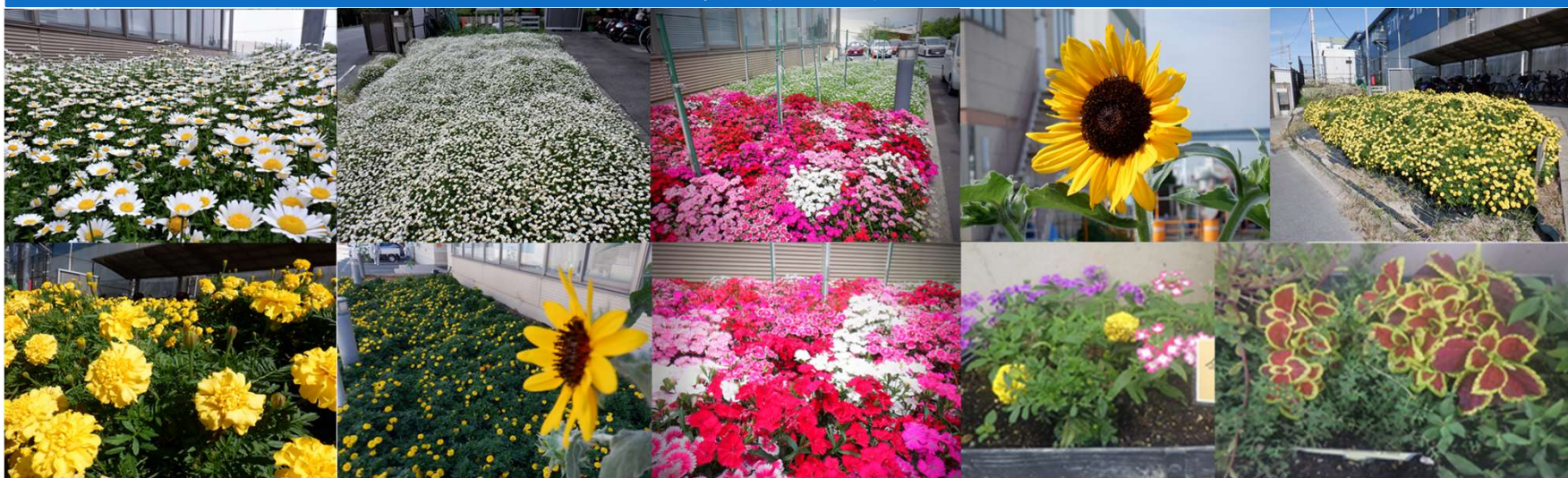
今年も美しい花を咲かせるための花壇整備活動を実施することができた。花壇水やりの水を上水から工業用水に切り替えることで水コストを削減し経済的に持続可能な花壇整備環境を整えることができた。

毎月、構内の清掃活動を行い、班毎にプランターを設置し、緑の活動をプラント課員全員で取り組み、環境に配慮した活動ができた。
また内部コミュニケーションにも重点を置き課内での環境負荷軽減に対する意識向上に繋げて行くことができた。

構内清掃活動



みどりの活動



環境活動の実施

実施内容	評価
①古切手をボランティア団体へ寄付	○
②内部コミュニケーションを通じて環境の保全に努め、個人の環境に対する意識の向上を図る。	○

古切手寄付のお礼状



環境活動推進センター
日本国際ボランティアセンター
〒110-8605 東京都台東区上野5-22-1 東鉄ビル4F
TEL: 03-3834-2388 / FAX: 03-3835-0519
E-mail: mono@ngo-jvc.net WEB: https://ngo-jvc.info/thanks-mono

大栄環境グループ 御中

2025年4月11日

お礼状(兼)受領書

このたびは物品寄付を通じてJVCの活動をご支援いただき、まことにありがとうございました。
皆さまから寄せいただいた物品は、専門業者やコレクターさんの買取などにより換金し、JVCの活動資金となっており、最良の状況に置かれている世界の人々のための活動に役立てられます。このような物品を通じての支援は近年1,000万円/年を超えており、人々の暮らしを支える大きな力となっています。

＜買い取り金額の目安＞
●使用済み切手 ……10kgごとに約16,000円
●外国硬貨 ……20kgごとに約35,000円

◆バネチナ・ガガ緊急支援を続けています

2025年1月19日、ようやく停戦が実現しましたが、被害者の70%以上が全壊または半壊しており、避難民190万人が居る場所はほとんど残っていません。少なくとも4.6万人が命を奪われ、11万人以上が負傷、1.7万人が行方不明となっています。国連の発表によれば、互換や不発弾の除去だけで15年はかかる見込みであり、多大な支援が引き続き必要状況です。

例えば使用済み切手は約1kgでおおよそ1,600円に換金されますが、この金額は、乳児の1週間の粉ミルクを支給できる額に相当します。

◆有用封筒やチラシの配布などのご協力も大歓迎です

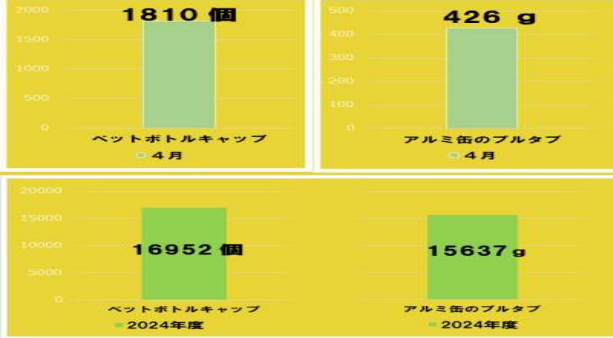
今回と同様の物品以外にもJVCでは様々な物品を受け付けております。該当する不要品がございましたらJVCにお送りいただけたら大変幸いです。品目の詳細はJVCのウェブサイトをご覧ください。
また、物品支援専用封筒やチラシを御社内等で配布していただく形でのご参加の方法もございます。ぜひご検討いただけますと幸いです。

皆さまと今後も協働の機会をいただけたら、大変幸いです。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター (JVC)
物品支援係一同
〒110-8605 東京都台東区上野5-22-1 東鉄ビル4F
TEL: 03-3834-2388 / FAX: 03-3835-0519
MAIL: mono@ngo-jvc.net WEB: https://ngo-jvc.info/thanks-mono

ペットボトルキャップ・プルタブ回収啓発



不要衣類のウエス再利用活動



担当者のコメント

古切手の回収活動については少しでも集まり易いように、各事務所に回収ボックスを設置した。
社内メールなどを駆使し、回収の啓発活動を行った。
グループ他事業所にも協力を依頼し、回収を強化した。
回収した切手については6か月ごとに郵送し、2,750枚を寄付することができた。

内部コミュニケーション活動は各月のテーマに沿った個人目標を立て、目標達成に向けて各人取り組んだ。
その他、清掃活動・みどりの活動を通して、近隣地域や社内の美化・緑化に努めた。
ペットボトルキャップやアルミ缶のプルタブの回収活動を従業員だけでなく、土壌運搬しているドライバーへの協力依頼や回収実績の啓発を行うことで、環境活動を社外へも広がっていくことができた。

また従業員の不要になった衣類の回収を行い、現場のウエスに利用する活動を行い、ウエス購入費の削減及び布製品のリユースに繋げた。

2024年度ドライバーからの回収実績
ペットボトルキャップ：16,952個
アルミ缶プルタブ：15.6kg

環境活動

ジオレ・ジャパンでは、CO₂排出量を抑制すべく様々な取組みを行っています。
化石燃料使用量や電気使用量等の記録保管はもちろんのこと、それらのデータを参照し、削減に向けて、従業員が個々でも実践しています。

一人一人が意識をしっかりと持つことで、少しでも多くのCO₂排出量が削減できるよう取り組んでいます。



節電

節電を実施することで、CO₂排出量を抑制しています。
電源近くに節電ステッカーの掲示や毎月、電気やエアコンの切り忘れがないかパトロールを行い、従業員の節電に対する意識を高めています。



エコドライブ推進

社有車や重機のエコドライブを推進することで、化石燃料の使用量を削減し、CO₂排出量の抑制に繋がっています。
運転日報に啓発ステッカーを貼付することで、従業員にゆとりを持った運転を心掛けるようにしています。



節水

蛇口の閉め忘れを防止するために、掲示をしています。
水道は私生活や職場生活で必要不可欠ですが、抑制できるところは抑制することで、必要最低限の資源の活用に繋がっています。



みどりの活動

みどりの活動では、従業員が花を育てています。四季に応じた植物を花壇に植え、成長の過程をみんなで眺めています。
この活動を通して、緑の大切さを学び、環境への意識を高めています。

美化活動

ジオレ・ジャパンでは、月に1回プラント課員による施設内の清掃活動と年2回、本社・末広工場周辺の清掃活動を実施し、作業場及び周辺の美化に努めています。

美化活動を通じて、地域の方々との交流や従業員の環境保全に対する意識づけを行い、環境改善を推進しております。

冷却装置周辺



焼成ヤード前



本社工場前構外清掃



油水分離槽



塩化カルシウム貯蔵タンク前



末広工場前構外清掃



教育・訓練

ジオレ・ジャパンでは年間計画に基づき計28項目の教育・訓練を実施しています。

教育講習では、従業員が講師を務めることで、教える側は資料集めやテキスト作成を行い知識が豊富になり、受ける側は身近な人が講師を務めるおかげで内容が入りやすく、また気軽に質疑応答もできるため、両者の育成に繋がっています。

訓練では作業手順書や防災道具を使用した内容となっており、緊急時に迅速に対応できるようになっています。

	部署	教育項目
1	総務課	庄下川水路流出油対策訓練
2	総務課	エコアクション活動周知（EA21認識教育）
3	総務課	消防訓練
4	総務課	入社時説明
5	総務課	新入社員に対する自己申告シートの説明会
6	総務課	健康経営セミナー
7	プラント課	地震・津波・台風被害を想定した避難訓練
8	プラント課	停電時の対応訓練
9	プラント課	PCB廃油の漏洩時緊急対応訓練
10	プラント課	薬剤・薬液の取扱いに関わる教育
11	プラント課	汚染土壌の流出に関する、緊急時対応訓練
12	プラント課	洗浄用水の流出に関する、緊急時対応訓練
13	プラント課	排ガス濃度の維持管理に関する、設備教育
14	プラント課	光化学スモッグ注意報等発令時の対応教育
15	プラント課	土壌投入業務配置時重機教育

	部署	教育項目
16	技術課	重機・土壌運搬車両の油類漏洩時の対応訓練
17	技術課	車両運搬中における汚染土壌流出時の対応訓練
18	技術課	2024年度技術課での取り組みについての説明（燃料・古切手・内部コミュニケーション）
19	技術課	2024年度 環境ラリーやその他関連する取り組みについての説明
20	企画開発課	土壌汚染対策法に係る周知説明会
21	企画開発課	土壌汚染調査技術管理者試験対策講習
22	品質管理課	土壌汚染対策法に基づく浄化確認調査に係る教育
23	品質管理課	各法令等に基づく環境測定等の実施および官公庁への結果の報告に係る教育
24	品質管理課	省エネ法等に基づく定期報告内容等に係る教育
25	品質管理課	汚染土壌の処理技術に係る教育
26	品質管理課	分析室内作業における使用薬品および関連法令に係る教育
27	品質管理課	廃棄物処理法に係る周知説明会
28	品質管理課	危険予知トレーニング（KYT）

教育・訓練

講習 (2024年4月～2025年3月の期間中に実施)



土壌汚染対策や廃棄物に関する講習や緊急時の対応、様々な講習会を計画的に実施しています。全従業員が各講習で得た知識を現場で活かそうと真剣に聴講している姿が見られます。

避難訓練 (2024年10月21日に実施)



地震や火災といった災害時に迅速に避難が行えるように、避難訓練を実施しています。また、海が近いことから津波を想定した訓練も行い、緊急事態に備えています。

消防訓練 (2025年3月26日に実施)



場内での火災を想定し、訓練用の水消火器で消火訓練を実施しています。一人一人が実際に訓練を受けることで防災意識を高め、火災発生時の初期消火の要領を学ぶことができます。

緊急時対応訓練 (2024年10月～2025年3月に実施)



現場（プラント）では災害や停電、高圧ガス漏れやPCB廃油漏洩等の緊急事態が発生した際の二次災害を防ぐことを目的とした緊急時対応訓練を実施しています。

10.大栄環境グループの取組み

グループの概要/廃棄物処理・リサイクル事業拠点

大栄環境グループの概要

(2025年6月27日時点。ただし従事者数は除く)

組織構成

連結子会社 42 社

大栄環境(株)

三重中央開発株	DINS関西株	株共同土木	株ジオレ・ジャパン	株セーフティーアイランド
株摂津清運	京都かんきょう株	株神戸ポートリサイクル	大栄アメント株	株摂津
株クリーンステージ	株ブラファクトリー	株クリエイトナビ	株東北エコクリーン	近江八幡エコサービス株
三基開発株	株グリーンアローズ関西	株ソフトウェア トータルサービス	株丸与	株総合農林
株ディンズ環境 分析センター	ディーデザイン株	株大栄環境総研	資源循環システムズ株	DINSみらい株
株アイエスビー・ジャパン	街芦屋浄水	アイナックフットボールクラブ株	DINS北海道株	忠岡エコサービス株
栄和リサイクル株	株浦安清運	株アイア	株グローバル・ エンバイロメンタル・テクノロジー	相生エコサービス株
株海成	街クリーンテック名張	肥前環境株	宮古島エコサービス株	京都エコサービス株
農事組合法人ねぎぼーず	農事組合法人横の里			

2025年5月末時点

従業員数※
(臨時雇用者含む) 2,774 人
専属協力会社
従事者数 721 人
合計従事者数 3,495 人

廃棄物処理・資源循環等事業拠点

大栄環境 および 連結子会社保有	■再資源化施設等	32ヵ所
	■その他事業拠点	26ヵ所
	■営業所	13ヵ所
持分法適用 関連会社保有	■再資源化施設等	3ヵ所
	■その他事業拠点	3ヵ所
持分法非適用 関連会社保有	■その他事業拠点	5ヵ所



10.大栄環境グループの取り組み

サステナブルラリー

大栄環境グループでは、全員参加型の環境活動で、環境に関する様々な取組目標を設定し、実施状況をポイント化することにより、誰でも無理なく取組める環境活動となっております。

また、取組項目はSDGsの17個の目標を組み合わせたものとなっており、サステナブルラリーに取組むことで、環境に興味・関心を持ち、自発的に環境活動に参加してもらうことを狙いとしています。

【2024年度実績】

(前年比)			(前年比)		
4月	12.4点	99.2%	10月	12.5点	97.7%
5月	12.3点	96.9%	11月	12.4点	96.9%
6月	12.5点	98.4%	12月	12.4点	96.9%
7月	12.7点	99.2%	1月	12.3点	96.1%
8月	13.0点	102.4%	2月	12.3点	96.1%
9月	12.5点	98.4%	3月	12.6点	98.4%

サステナブルラリー 2024			目標：統一項目8点以上		
	テーマ	区分	項目	備考	点数
1	ウェルビーイング	エシカル	エシカル消費の促進	①消費期限の近づいた値引き商品を購入 or ②「認証マーク」付や「エシカル商品」の購入 ③カーボンフットプリント表示商品の購入	1点
2		健康	自分の健康増進を進めている	私は健康のために 【	

10.大栄環境グループの取り組み

環境レター

大栄環境グループの各事業所が持ち回りで環境レターを作成し、グループの全従業員に内容を周知することにより、グループ全体の環境への意識向上を目指しております。

また、毎月環境クイズを出題し、従業員一人一人が考えることで、環境への知識向上も目指しております。

ペットボトルキャップ・アルミ缶の回収

環境ラリーの取り組み項目のひとつとして、ペットボトルキャップとアルミ缶の回収を積極的に行っています。ペットボトルキャップは原材料として購入することで世界の子供達にワクチンを届けることに繋げております。アルミ缶は回収した金額を全額寄付することで地域の発展に役立てています。

【2024年度回収実績】

アルミ缶	18.0kg
ペットボトルキャップ	23.2kg



環境レター 1月

発行日: 2025/1/1
No.316

原稿: ジオレ・ジャパン

世界の食品ロスについて



United Nations Environment Programmeが発表している「Food Waste Index Report 2021」によると、世界の食品ロスは9億3,100万tで、61%が家庭から廃棄され、続いて外食産業が26%、小売業が13%という結果が出ました。(数値は2019年実績)
更に同レポートには家庭で廃棄される食べ物の量について、世界ランキングを発表(下記の図参照)しており、日本は世界で14番目に家庭での食品ロスが多い国というのがわかりました。

ただ、このランキングは人口が多い国は廃棄量も多いので、必然的に上位になります。そこで1人当たりの年間廃棄量を見ていくと、日本は約64kgで1人あたりの年間廃棄量で見ると、1位の中国と同じという結果となり、61%を占める家庭から廃棄されている食品ロスをいかに減らしていくかが改めて大切だと考えさせられるレポートだと感じました。

出典: United Nations Environment Programme (2021). Food Waste Index Report 2021.
(<https://wedocs.unep.org/20.500.11822/35280>)

順位	国名	食品廃棄量	1人当たりの年間廃棄量
1	中国	91,646,213 t	64 kg
2	インド	68,760,163 t	50 kg
3	ナイジェリア	37,941,470 t	189 kg
4	インドネシア	20,938,252 t	77 kg
5	アメリカ	19,359,951 t	59 kg
...	...	...	...
14	日本	8,159,891 t	64 kg

1月の環境クイズ

先ほどは廃棄量が多い国のお話でしたが、逆に1人当たりの年間廃棄量が少ない国はどこでしょう？

A: ロシア B: スロベニア C: オーストラリア

12月の環境クイズ(答え)

B: 自動車運転の業務

出典: 厚生労働省HP「建設業・ドライバー・医師等の時間外労働の上限規制(旧時間外労働の上限規制の適用猶予事業:業務)」
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/gyosyu/topics/01.html)を加工して作成



サステナ晰

「食品ロス」が重要な社会課題だと何度もお伝えしていますが、あの「うんごドリル」も消費者庁と協力して子供向け冊子を制作しています。
※ただし、使用種の都合により、印刷不可・閲覧のみとなっていますので、ご注意ください！



代表者による全体評価と見直し結果

平素は、皆様方からの格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は、二酸化炭素排出量や廃棄物発生量、水使用量についても概ね前年度並みの実績となりました。

また次世代のリーダー育成のため、委員会メンバーが若手中心へと切り替わり、各々が活動の裾野を広げていこうと社内での環境に関するコミュニケーションが活発化した1年でもありました。

今後は、末広工場の新規施設が竣工となることから新たな環境負荷削減への取組みを練っていく必要があります。これまでの流れを維持しながら新たな課題へも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

引き続き従業員が一体となり、すべての方々により良いご報告ができるよう、環境経営活動を推進してまいります。

代表取締役
柴垣 雄一



美しい地球を未来へ

株式会社ジオレ・ジャパン

兵庫県尼崎市東浜町1-1

TEL 06-6411-3690

FAX 06-6411-3225